

第58回日本眼炎症学会総会 開催報告

日本医科大学 多摩永山病院眼科 教授 堀 純子

第58回日本眼炎症学会を2025年7月11日(金)12日(土)に横浜パシフィコ国際会議場で開催いたしました。本学会は、「フォーサム2025」として、第61回日本眼感染症学会、第67回日本コンタクトレンズ学会、第13回日本涙道涙液学会との4学会が”Reunion for the future”をテーマに合同開催しました。おかげさまで1800名を超える参加登録者数で、盛会のうちに本会を無事終えることができました。また、オンデマンド配信は8月8日から25日まで視聴されました。



私は学会長として本学会のプログラムの基盤を「ダイバーシティとグローバル化」を定め、特別講演はオランダのライデン大学 Martine Jager 教授の“Inflammation in ocular oncology and corneal transplantation: the good and the bad?”のご講演、合同シンポジウム基調講演は米国 NIH の Rachel Caspi 博士に”The gut-eye axis in retinal autoimmunity”をご講演いただきました。お二人は世界を代表する女性研究者であり、最先端の科学に加え、国際的な学術活動やキャリア形成についても示唆に富むご講演を賜り、会場を大いに盛り上げてくださいました。

英語で行われた合同シンポジウム”Microbiome and ocular diseases”では、腸内細菌叢や眼局所細菌叢と眼疾患の関わりについてディスカッションを深めました。もう一つのシンポジウム”眼炎症の未来～The Future of Ocular Inflammation”では、日本眼炎症学会ダイバーシティ諮問会議からの提言や、若手の先生方のイノベティブでワクワクする眼炎症診療と研究の発表があり、会場一体となって眼炎症領域の臨床、研究、教育の未来を考える機会となりました。



また、学会プログラムにおけるダイバーシティを明確に実現するにあたり、特別プログラムの講演者と座長および一般演題の座長のジェンダーバランスを男女同比にしました。全てのプログラムにおいて、活発な発表と議論が交わされ、非常に有意義な学会となりました。

最後に、本学会開催にあたり、日本医科大学医師会より格別のご高配とご支援を賜り、誠にありがとうございました。